

政府・東京電力中長期対策会議 研究開発推進本部 第2回会合 議事概要

日 時： 平成24年1月23日(月)11:30～12:10

場 所： 東京電力 本店 本館1201会議室

出席者：【本部長】北神大臣政務官(経産省)

【副本部長】園田大臣政務官(内閣府)、神本大臣政務官(文科省)

【構成員】朝日委員(経産省)、相澤委員(東電)、

加藤委員(文科省)、横溝委員(JAEA)、金山委員(産総研)、

岡村委員(東芝)、丸委員(日立)、尾本委員(原子力委員会)、横山理事

(電中研)、浅間教授(東大)、井上顧問(電中研)

議 事：

1. 冒頭ご挨拶(北神大臣政務官)

- ・ 今回から新しい委員(構成員)の方にも、参加頂いている。廃炉・解体に鍵となる使用済燃料取出しや、デブリをどうやって処理するか、また、その前に行う作業場の除染も極めて重要である。
- ・ メーカー3社も主体的に進めて頂いているが、国内外の知恵を結集して着実に進めていく。
- ・ 研究拠点についても、皆様の力添えを頂き進めて参りたい。

2. 新メンバーについて

- ・ 事務局より、研究開発推進本部のメンバー追加について説明があった。
 - ① 各機関代表: 電中研 横山理事
 - ② 学識経験者: 浅間教授(東大)、井上顧問(電中研)、田中教授(東大)、山名教授(京大)
 - ③ オブザーバ: 山田福島支援本部部長(電事連)

3. 個別研究プロジェクトの進捗状況

(燃料デブリの性状把握および廃棄物処分に係る研究開発)

- ・ 資料2に基づき、本プロジェクト実施者(JAEA)より説明。
- ・ 井上委員より以下のコメントがあり、事務局として今後の検討において十分配慮することとした。
 - ① 東電との関係は単なる「情報共有」にとどめず、東電からの明確なニーズ提示に基づき、要請研究としてJAEAが実施するという形をより明確にすべき。
 - ② 参加機関が文科省と経産省にまたがることから、研究開発推進本部には、予算措置を含め十分な権限を付与し、円滑に研究会が進められるようにすべき。

4. 技術カタログ検討ワークショップ(仮称)の計画について

- ・ 資料3に基づき、事務局から、国内外叡智の活用に向けた技術カタログ検討ワーク

ショッポの開催計画について説明。

- ・ 委員から以下のコメントがあった。
 - ① 技術カタログ化に際しては、ハード面だけでなく、どの機関にどのような経験を持つ人材がいる、というソフト面の情報もデータベース化すべき(浅間委員)
 - ② 周知の際には、趣旨を明確にし、「何か貢献出来るかも知れない」と考えている機関・人材にとって十分な検討材料となる情報を発信して欲しい(金山委員)

5. 研究開発拠点構想

- ・ メーカー代表(日立GE)およびJAEAから、研究開発拠点に関する検討状況に関する経過報告が口頭でなされた。
- ・ 廃炉に向けて、立地、予算などを踏まえ国にはグラウンドデザインを描いて欲しい。
- ・ 今後、現場ニーズと、その発生時期を整理し、どの時期にどのような施設が必要になるかといった内容を、3月中を目処にまとめる方向で検討を継続する。

6. 終了ご挨拶(北神大臣政務官)

- ・ 燃料デブリや放射性廃棄物の処理はこれから重要となる課題であり、関係機関で連携し、結果について、適宜共有しながら進めてほしい。
- ・ 本年度中に取り組む技術カタログについては、仕様等の明確化を急いでほしい。浅間教授をはじめ、皆さまのご協力をお願いしたい。
- ・ 今後、避難区域の見直しが進められていく中で注目が高まることから、現場の具体的なニーズとロードマップをあらためて整理した上で検討を進めることが重要。引き続き、検討を進めてほしい。

7. その他

- ・ 第3回の会合は以下の日程で開催する。
平成24年2月27日(月)11時10分頃～

以上